



人形劇
「ともだちになった
きょういゅう」

劇に使う「木」や自分たちの着る「衣装」の飾りつけは自分たちで行いました。

にじ組
表現遊び



お気に入りの恐竜で人形劇をやりたい思いはありましたが、自分たちでお話を考えることが想像以上に難しく、先生が間に入って何度も話し合うことを繰り返しました。

赤ちゃん恐竜を食べようとした恐竜と、お母さん恐竜がどういったきっかけで仲良しになるのかがなかなか決まらず、そこが一番頭をひねった部分です。



何度も遊んで慣れてくると、遊んでいる途中で頭の中にいろいろな話が浮かんで来るようになりました。途中、思い付きで話が進み、打ち合わせと違う流れについていけない子も出てきました。急に変わると友達が困ることや、みんなで決めた話は変えずに遊びを進めることの大切さを知りました。相手の気持ちを考える機会になりました。



みんなで木の実を食べよう

自分たちで遊ぶことを楽しんでいましたが、徐々に、小さい組や園長先生に見てもらいたい、という気持ちが出てきました。見せた後は、感想を聞くことが習慣になっています。そこでのアドバイスをその後の取組に活かしています。

仲良くなれるかな？

